

施策	4101 地域医療の充実							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	市民							
施策が目指す姿	市民が適時・適切な医療を受けることができるよう、地域医療を支える医師の確保対策、地域の医療機関や中核病院等の充実、地域拠点等における医療福祉機能等の充実、かかりつけ医の普及、市民への適正受診の啓発を図ります。							
成果指標	人口10万人当たりの医師数...5年間で120人(現状値115人) かかりつけ医療機関を持っている割合(高齢者)...5年間で80%(現状値 %)							
目 標 達 成 状 況		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	成果指標1 [人]	予定	115.00	117.00	117.00	120.00	120.00	
		実績	123.00					
	成果指標2 [%]	予定					80.00	
		実績						
		単位コスト						
	成果指標3 []	予定						
		実績						
		単位コスト						
	成果指標4 []	予定						
実績								
	単位コスト							
トータルコスト (千円)	予定	508,496	508,426	508,446	0	0		
	実績	508,207	508,426	508,446	0	0		
内 部 評 価	貢献度	上位施策の「地域医療の市民満足度」等を向上させるためには、医療機関等の充実により医師の確保を図ることが重要であることから、本単位施策の貢献度は高い。						
	達成状況	とちぎメディカルセンターが本格稼働して3年が経過した。診療体制の強化に取り組んだ結果、医師数の増加が図られた。						
	課題	地域医療の充実を図るため、医師確保に向けた環境整備を行っているが、全国的に医師不足が深刻な課題となっている。						
	取組方針	地域医療の充実のため、医療機関・県と連携して医師確保に向けた取り組みを行う。						
外 部 評 価	<p>指標である「人口10万人当たりの医師数」について、2022年目標値120人を超える123人を確保できたことは評価できる。職員の内部評価では、引き続き医師確保に向け働きかけを行うとされているが、そうすると120名という目標設定自体妥当な数字なのか。目標値については、市として真に必要な数字を見込むべきでは。</p> <p>また、医師数が増えるということは、それに対し、スタッフ等の増員も必要と思われるので、適正な配置を病院等に呼び掛けてほしい。</p>							
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度	
	273201	地域医療対策基金積立金				752	100	
	273301	地域医療推進事業費				6,705	100	
	273401	とちぎメディカルセンター運転資金貸付金				500,750	100	

単位施策評価表 補表

施策	4101 地域医療の充実		
区分	妥当性	妥当	医療体制の充実を図るため、必要な事業であり妥当である。
	コスト削減の余地	無	メディカルセンターの運営状況により、必要な支援を行っていく。
	受益者負担	適正	地域医療の充実のための支援策であり、受益者負担は求めている。
	上位貢献度	有効	地域医療の市民満足度に直接つながることから貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	類似事業はない。
	成果向上の余地	有	引続き医師確保を推進し、市民満足度の向上を図る。
内部評価	貢献度		
	達成状況		
	課題	地域医療の充実には、医師の確保のほか、かかりつけ医の普及、医療機関への適正受診啓発等が必要となる。	
	取組方針	医師会と連携し、かかりつけ医の普及・啓発、在宅医療の推進を図るとともに、国・県大学病院等関係機関に医師確保に向けた働きかけを行う。	